令和７年度 第１回 島田市認知症対策検討委員会

開催日時　令和７年８月 19 日（火）19：00～20：30
開催場所　島田市役所　大会議室西（３階）
出 席 者　【委員】
島田市医師会
榛原医師会
島田市薬剤師会
榛原薬剤師会
地域包括支援センター（第一）
地域包括支援センター（六合）
地域包括支援センター（金谷）
グループホーム（郷の家）
小規模多機能型居宅介護事業所
（まごころの家　島田）
当事者
当事者
家族
島田氏民生委員児童委員協議会
島田市商工会
島田市教育委員会　学校教育課
【事務局】
包括ケア推進課長
地域支援係長
保健師

１　開会

２　委嘱状交付

３　包括ケア推進課長あいさつ

本日はお忙しい中、「令和７年度　第１回島田市認知症対策検討委員会」にご出席いただき、ありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては、就任に際しまして、御快諾いただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、令和６年 12 月３日に閣議決定した、「認知症施策推進基本計画」によると、2040 年には 65 歳以上の約 3.3 人に１人が認知症、もしくは認知症の前段階と言われる「軽度認知障害（MCI)」になると推測されています。認知症は、いまや、誰もがなってしまう可能性のある、身近なものとなりました。自身だけではなく、周囲の方も認知症になる可能性があることから、誰もが認知症を「自分事」として考える必要があると感じております。

本委員会は、認知症に関する正しい知識の普及、及び、認知症の人とその家族等が、地域で

安心して日常生活を営むことが出来るようにするための検討を行うことを目的として開催しております。例年、委員構成は、医療介護関係者が主となっておりましたが、今回初めて、当事者様や商工・金融・学校関係者様にもご参加いただいております。様々な立場の方が会することで、多様な視点と新たな連携が行えることを期待しております。

どうか忌憚のないご意見をお願い申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

４　委員及び事務局職員紹介

５　会長・副会長の選任

委員の推薦で、会長、副会長が選任された。

６　会長あいさつ

皆様こんばんは。本日はお疲れのところお集まりいただきありがとうございます。活発なご意見をよろしくお願いいたします。

７　島田市認知症施策について(報告)【資料１】

事務局説明

〇委員

第 10 次島田市高齢者保健福祉計画において、高齢者や要支援・要介護の推移が載っているが、認知症になっている方の島田市の推移はあるか。活動を行う中で、島田市の推移をみることで、他市との比較ができると思うが、あるか。

〇事務局

国の動向に合わせて推計したものを掲載している。市の認知症者数の推移がどの事業によるものかの把握が難しく、すぐに効果が出ないこともあり、分析ができていない。参考にしていく。

８　意見交換

（１）新しい認知症観について

〇副会長

当クリニックは本年 4 月から認知症疾患医療センターに県から認定され、物忘れ外来を行っています。

認知症疾患センターとは、認知症疾患における鑑別診断や専門医の医療相談、医療機関等の紹介、地域保健医療介護関係者への研修や連携を行う専門機関です。県内では、県指定が 12 ヶ所、静岡指定が 3 ヶ所、浜松市の指定が 1 ヶ所の合計 16 ヶ所がございます。

志太榛原地区には、３か所の認知症疾患医療センターがあり、今年度認定された当クリニックが今後皆様と一緒に地域の認知症の患者さんをみていきたいと思います。

統計的な話で、認知症と MCI の割合が年齢に応じて、増えていくとなっており、2022 年の

データでは、65 歳以上の認知症患者数は、日本全国で 443 万人(12. 3%)MCI 軽度認知症の患者さんは 559 万人(15.5%)という統計が出ております。
島田市の人口を 9 万 5870 人とし、65 歳以上の方が 3 万 704 人(32%)います。これを先ほどのデータに合わせると、島田市では、認知症の方がおよそ 3700 人、MCI の方は、4759 人となり、これが島田市の状況でございます。
共生社会の実現を推進するための認知症基本法が昨年の 1 月に制定され、この中で重要な部分が、新しい認知症観に基づいて施策を推進しましょうということを国が訴えています。
これまでの認知症感というのは、認知症になると、何もできなくなる。介護を受けてないと生活を続けられないというような、マイナス思考の考え方でした。対して、新しい認知症観というのは逆にプラスに前向きにいこうというもので、誰もが認知症になることを前提に、自分のこととして考えましょう。認知症になっても何かやりたいことがありますと、この住み慣れた地域で、仲間と繋がりながら、希望を持って自分らしく暮らしていくというものです。これに基づいて施策をやっていこうというのが、新しい認知症観です。
またその新しい認知症観では、四つの重点目標があり、国民の理解、地域で安全な暮らし、本人の意思、新しい知識や技術は取り入れ、再評価していくということが基本計画の４つの大きな重点目標です。
最後に本人ミーティングも重要です。本人ミーティングは軽度認知障害や認知症の方が集い、本人同士が中心になって、自らの体験や希望を必要としていることを語り合い、自分たちがこれからどう良い暮らしや暮らしやすい地域のあり方にしていくかを話し合って発信していくものです。その中に地域の方や行政もこのミーティング参加して、軽度認知障害の方や軽症認知症の人たちが自分らしく過ごし続けるために必要とされることを、自分事として、より良い施策や支援施策を一緒に進めていくことが大事です。以上、報告です。

〇委員
誰もが認知症になりうることを前提に、自分事として考えるっていう部分で、その方が尊重される生活を提供するため、毎日工夫しています。嫌なことはしたくないと思うので、自らやりたいという意見が家、それがさりげなく行えるように支援をしています。
VR 認知症体験の説明が事務局からあったが、認知症の方がどんなふうに見えているのかを知りたいと思って、事業所でできないかと思った。そのような簡単に研修・体験ができて、自分事として考えられると良いと思いました。

〇委員
自分は地域包括支援センター職員として地域の方のご相談を受けたり、要支援者の直接的な支援をしています。認知症は当然だと思うが、なりたくてなっているわけではないです。私の担当する方では、認知症の診断を受け、車の免許を返納になったが、どうして自分は免許を返さなければならなかったのかという話を 1 年間、毎月のように話を伺っており、悔しいと話されていた。また、確定申告を毎年しているのに、できなくなってしまった。去年できたのになんでだろうという話を、何度もお話をされ、受け止めている。本人は話したことはもう忘れてしまっていて、私は保健師という立場で、高齢者支援をさせてもらっているが、家族の立場で聞いてみると難しいと思う。自分自身の経験としても、祖母が毎回同じように、

質問をしてきた時に、うるさいよと言ってしまったこともある。家族にはなかなか受け止めきれない部分もあり、難しい病気だと強く感じる。そのように家族にはなかなかできないことでも、社会や地域の仕組みで支えることができるということが素敵なことだと思っています。その実現が難しいと思うが、我々も頑張っていきたいと思います。

〇会長
今回は様々な分野の職種の方に携わっていただいていますので、現在の日々の業務の中で伺います。お店などでは常連などもいると思いますが、高齢者の変化などに気づく方もいらっしゃるかもしれません。普段認知症の方と関わることはどうでしょうか。

〇委員
事業主さんが認知症という方と直接接したことは無い。高齢の会員さんもいるが、自ら自分は認知症だと伝えられたことは無いが、80代の方と事業の話をした際に、同じことを繰り返して聞いてきて、心配になる場面には出くわしたことがある。

〇事務局
欠席者（委員）の意見代読
JAが認知症の方と接する場合に気を付けていることとして、ご来店いただいたお客様が認知症と判断することは非常に困難であり、伝票等の記入ができれば取引は成立してしまいます。明らかに話す内容に違和感があるなど、見て判断できる場合には、ローカウンターに誘導し、窓口係と役席者など複数名で対応するなど工夫しています。その際はゆっくりと丁寧にわかりやすい言葉を選んで説明しています。こちらから一方的に話すのではなく、なるべく話を聞くように心掛けています。また可能であれば、ご家族様等一緒にご来店いただくよう依頼しています。
認知症の方に限らず、共済(保険)の販売にあたっては一定のルールを定め、営業を行っています。認知症が疑われるお客様には営業は行いません。生命共済に限らず建物保障の保険についても営業は行いません。
認知症でなくても70歳以上の方に契約を締結する場合は、親族等の同席をお願いしています。親族等が遠方で当日同席が困難の場合はオンラインによる同席も可能です。また同席を断られた場合は、電話等により親族等へ確認を行います。同席、電話の両方を断られてしまった場合は、契約時に複数名のJA職員で訪問し、契約内容等について説明を行い、今回契約する保障についてご理解いただけたか確認することとなっています。基本的には同席、電話の両方を断られることはなく、親族等に同席いただき契約いただいています。高齢者の場合、親族等で保障内容等の情報共有ができていれば、いざという時にサポートしてもらえるので安心と考えます。

〇会長
当事者の方から率直な意見をいただきたいが、診断前と変化はありますか？

〇委員

今のとこ全然ありません。

○委員
自分が認知症だというのは、自分でいろいろ忘れることがあって、子供に話をしたら病院行く方がいいと言われて、病院に行きました。それから先生にいろいろ見てもらい、薬もいただいたら、忘れることも前ほどじゃなくなり、少し自信がつきましたが、まだ今から古くなる一方なので、ちょっと困ったと思いました。今日ここへ来させてもらったのは、皆さんの意見も聞いて、参考にしたいと思いました。

○会長
学校教育では、認知症について取り上げていることや取り組んでいることは特にあるでしょうか。

○委員
学校教育では認知症に特に縛られず、インクルーシブ教育などが注目されている分野です。多様性に着目した取り組みが多く散見されます。その中で、目指すべきものは共生社会の実現というところであり、その一環として福祉の総合的な学習の中で認知症や障害のある方を取り上げているところがあります。

（２）新しい認知症観について【資料２】
○会長
資料２について、「自分が認知症になった時、どう生活できたら嬉しいですか」というテーマで意見を伺います。

○委員
毎日相談を受けているが、ご家族が相談に見える方が多い。ご家族が心配されてても本人は、私はそんなの違うという方が多いです。もし自分がそのような立場になって、家族から病院受診を勧められたら、素直に受診し、診断をしていただき、適切な薬があればそれを処方していただきたいです。症状と上手に付き合いながら仕事ができるなら、できることをさせていただきたいです。またどうしても自分で判断能力がなくなってしまったら、安心して暮らせるところに住ませていただくということも良いかと思います。

○委員
認知症になる前から来ていただいていたが、対面で話をしている限りは認知症とは気づかず、内服内容で知ってショックを受けたことがある。治療中ということだが、以前と同じように話ができていて、治療の効果も出ているのだと感じています。治療を早い段階で始めればそんなにひどくならずに済む時代だと思います。自身も職業柄、新しい薬を覚えていかなくてはいけないが、年齢とともに、覚えが遅くなったり、すぐに思い出せなかったりすることがあるので、自分もいつか認知症になるんだというのは、今のうちから覚悟して仕事しています。

もし自分が認知症になってしまったときに、仕事を続けられるかと思うと、今の職業では少し厳しいと思ってるが、できるだけ自分ができる範囲で社会貢献や仕事をできたらいいと思っています。

また、お金の管理について、なかなか難しいだろうと思うので、自分以外の誰かでやってくれる人がいれば完全に委託してしまうっていうのも全然ありだと思っています。

〇委員

薬局で患者さん、オレンジカフェで認知症の方や家族と接する機会が多いです。特に治療する中で、薬を出していくと、最初はやっぱりどうしても皆さん喪失感を持たれる方もいますが、治療をしていく中で、特に変わらないという印象を持たれて、割と前向きにいつもと同じように過ごされる方もいます。一方で、認知症になると同時に自身やご家族がネガティブになっていってしまう方もいます。もし自分が認知症になったときは、何でもポジティブに捉えられるような生き方がしたいと思います。

例えば在宅訪問としてお薬カレンダーを設置するような薬局のサービスを実施しているが、服薬支援ロボットという、お薬の時間になると、ロボットが呼んでくれて出すというものがあります。このようなものに関しても面白がってやりたいという人もいる一方で、わかんなくなっちゃうから嫌だとなる人もいます。どっちがいいというわけではないが、新しい刺激を前向きに捉えるっていうこと自体は、社会全体としてもいわゆる新しい認知症観となると思う。認知症になったら、今まで関わっていなかった部分と関わることができるというようなことが島田でも出来たら良いと思います。

また今回の認知症疾患医療センターがせっかく島田市にできて、この県の制度を活用していくと良いと思います。同時に薬局でも、健康サポート薬局という制度があり、病気の予防や地域の方々の更なる健康の増進という、病院にかかる前の部分をしっかりやっていきましょうという制度があります。島田市内に認定されている薬局が 3 か所あるので、認知症疾患医療センターともうまく掛け合わせると良い。元々ある制度で行政主導の制度はなかなか活用されにくい部分もあるので、それらを市民と協同で活用していくようなものを、先進的に島田市がやっていることを、全国に見せていけたら良いと思います。

〇委員

母が 2010 年に認知症になって、静岡市で行方不明になり、警察に探してもらったこともあった。朝出かけて、夜中にふらっと帰ってきて、どこに行ったのか聞いてもどういう状況なのかわからなくなったのがきっかけでこれはおかしいと思いました。それから 14 年で、初期から重度で最後には会話もできず自分のことも全部できなくなって、全介助で食事や排せつ着替えを全部介護をしてきました。また父が認知症になりつつある状況です。

両親がなったから、自分も将来なると思って考えている最中です。子供も兄弟もいなく、最後は 1 人になると思うので、早いうちにどこか施設に入るんだと思っています。

父がデイサービスに行くことをずっと拒否をしていましたが、今年の 2 月に見学に行ったところ、ここならいいと言って通えるようになりました。そこでは、手芸の先生たちがボランティアに来てくれて、私もペーパークラフトのインストラクターの資格を持っているので、月に 1 回お年寄りでもできるクラフトをボランティアとして行っています。皆さん楽しそう

に作って喜んでくださいます。症状が重い方もおられますが、職員の方が一緒にやってくださって、みんなお土産に持って帰ると、家族に好評だったという声を聞くと嬉しいですし、みんなで作業するので、元気で明るくて、来てる方もすごく楽しそうにしてくれるので、そういうことをいろんな場所でできればいいなと思っています。

〇委員
私は２年半前に包括に入ってから、高齢者と接する機会が多くなったきっかけで、自分の家族と自分達の将来について話すようになりました。子供たちに認知症のことも話す機会が多くなったら、目が見えない高齢者がそのまま行くと壁にぶつかりそうな時に、子供たちが声をかけて、どこに行きたいかと声をかけたそうです。その話を聞いて、自然と手助けができるような社会ができると良いと思いました。私達包括は認知症サポーター養成講座で小中学校に出向きますが、祖父母と暮らしている子供は 1～2 割しかいなく、高齢者とどう接していいかわからない子も多いです。それも授業が終わった後に今の自分たちにできることがあるということをわかってもらえて、年齢関係なく差し伸べられるような社会ができると良いと思っています。

〇委員
　グループホームと小規模の両方の管理者をさせていただいております。日々、認知症の方々と向き合う中で、どれが一番その方々にとって、より良い生活になるのか、サポートができるのかを話し合いながら、ケアをしています。初期の段階で病院に行って良くなっている方もいる一方で、気づいたら症状が進んでしまっていた方もいて、どこで気づけるかがわからないと思いました。
　小規模では、お客様がこれまでやってきた仕事や特技を活かして、自分がいる意味や自分の特技を胸を張って言えるようなような環境作りをしていきたいと思っています。
　今は絵を描くことが得意な方が、書いた絵を褒めると、どんどん描いてほしい人が増えて、みんなの絵を描いている。そのように一人一人の特技・役割や生きる意欲・生きがいを持ち、みんながいる社会に出ていけるような環境づくりをできたら良いと思います。
また、今回のテーマを見た時に、支援はしているが、自分のこととして考えたことがあまりなかったです。ただ、家族には迷惑をかけたくはない。穏やかに家で過ごしたいし、サービスを利用するのであれば、自分の今までしてきた仕事や趣味を活かしてくれ、自分の思い考える認知症ケアの方向性のケアをしてくれる施設を利用したいと思います。

〇委員
　６年で 50 件ほど訪問している。書類関係の提出をお願いすると、処理が難しくなることが認知症と気づきやすい面です。
　自分が認知症になったら、自分の認知症のレベルや自立度を知りたいと思う。それによって、どういうサポートを受けなきゃいけないかや、転倒対策、また火に気を付けなくてはいけないと思いました。
　友人関係については、年齢とともに、友人関係が少なくなってくるので、免許返納になるとますます減ってくると思いました。

家族との話し合いは、お互い話し合いができるレベルなら良いが、そうではないと自分がどうなるかわからないので、大変だと思います。仕事は今はしていないが、家での役割を続けていければ良いが、続けていけないと家族との関係があるかと思います。

趣味は写真やウォーキングなど物を残さない趣味にしたり、新しい歌を覚えるようにしています。

認知症になったらそのレベルに応じて、家庭や施設を考えて家族と事前に話し合いたいと思います。

〇事務局

４月から業務が変わって認知症について考えることになったが、自分事ではないと思いました。家族が施設入所していて、認知症ではないが、同じ症状の幻覚があり、否定してはいけないのだと学びました。そのような認知症の方に対する対応などを学んで知ることが大切だと思います。行政目線で考えると、周知が大切だと感じます。80 歳以上の 3 人に 1 人が認知症だと言われていますが、車いすや杖を使っている人と同じように、「認知症なんですね案内します」「困ってます」など当たり前に接する社会になると良いかと思います。

〇委員

お話伺うと、その人らしく生きていくということがキーワードだと思いました。仕事をバリバリ行っていた義父が軽度認知症なったが、とても良い表情をした時があり、学校に招かれて、総合授業の進路学習に絡めて今までの話をしたことがあったのですが、自分が今まで頑張ってきたことやをお話できたことがすごく楽しかったようで、帰宅してからも、また行きたい、もっとやりたいと話をしていました。その人らしく生きてきた中で、また居場所が新しくできるということが人生の中で貴重な経験だったんだろうと思いました。

また、友人の母が教員だったが、若年性認知症になったのですが、その方もボランティアのように授業に係る機会があり、とても良い表情で帰ってきたということがありました。

その人らしく生きていくとは、今までどういう経験を積んできたか、趣味を見つけたか、仕事で頑張るというころがあったかということだと思います。

今日のテーマで自分事としたときに、その人らしくとは、自分らしく生きていくということであり、自分らしさとは何なのかということを考えます、すると小中学生からあなたらしさはどういうところかという部分を、一人一人育てていき、さらに、仕事と家の往復だけではなく、豊かに生きるためには、絵や水泳などの趣味を大切にしたい。そのように子供が豊かに生きていくという視点を教員が持つことも大事だと思います。
自分らしさがまだ整理できていない自分にとっては、どう生活できたら嬉しいですかという部分が答えとして思い浮かばずにいます。

〇委員

非常にためになりました。認知症になったらというテーマでは、友人との付き合いは今までと同じように付き合いたい。家族には優しく接してほしい、仕事は今までと同じようにやりたい。趣味はグランドゴルフをする、お金は妻に任せてやる、相談はよくわからなかった。過ごしたい場所は家。

〇委員

私は令和６年１月、軽度認知症と診断されました。忘れっぽいことは自覚ししていましたが、診断を受けて忘れっぽくなっているのを改めて認識しました。新しい点滴の薬も少しでも効けば、先生や家族と相談し、治療を受けました。診断を受けた後、夜の運転は怖いこともあり、ずっと通っていた夜の体操教室も行くことをやめました。付き合いのあった友達と会う機会は減ってきています。病院の受診と送迎は、家族の協力を受けることが増えています。この頃はほとんど運転をしません。これからも家で今までと同じように過ごしたいと思い、自分でも今までやってきた洗濯や掃除、簡単な料理は続けています。これから認知症がどのようになっていくかわからないんですけれども、できるだけ反抗して認知症取り除きたいです、本当は。でもそれが、かなわないかな。でも、逆らって家の生活をみんなのためにやっていきたいです。

〇会長

私も島田市で仲間と一緒に今までやってきたことをやっていけたらと思います。

〇副会長

皆さん、今日はいろいろお話できて良かったと思います。私は日頃多くの認知症の患者さんを見ていますが、実際自分がなったときに、それを受け入れるかは、車の運転なども含めて本当にどうかというように思います。今日皆さんと話しながら、これから病気のことを理解して、前向きにやっていきたいと思います。今日は皆さん本当にお疲れ様でした。

９．閉会